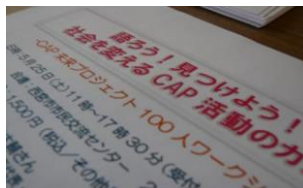


Panasonic NPOサポートファンド 組織基盤強化助成

語ろう！見つけよう！ 社会を変えるCAP活動のカタチ

- CAP未来プロジェクト 100人ワークショップ -
—報告—



2013年5月25日(土) 11時~17時30分

NPO法人CAPセンター・JAPAN

5月25日(土)の「語ろう！見つけよう！社会を変えるCAP活動のカタチ」は、25グループ35人、理事4人、事務局4人の総勢43人が参加して行われました。

100人ということにはなりませんでしたが、概ね100人で未来にむけてのこのプロジェクトが実施できたことを心から感謝いたします。

交通費の片道補助を行うこと、昼食をケータリングでとること、これらはCCJの初めてのチャレンジでした。

会員の皆さんと当日の様子を共有するため、ご報告いたします。

ネクストステージの展開は各地で行うランチミーティング(研修の機会を利用してランチを食べながら語り合う時間)等で共有してまいります。一緒にCAP未来プロジェクトで前進していきましょう！



🎵 スケジュール 🎵

- 11:00 オープニング
- 11:15 セッション1「お互いの『2012 年度』を知ろう！」
- 12:30 昼食休憩
- 13:30 セッション2「ファーストステージをふりかえろう！」
- 14:10 セッション3「私たちがつくり出したい未来とは？」
- 15:30 休憩
- 15:40 セッション4「ネクストステージを思え描こう！」
- 17:00 ふりかえり
- 17:25 クロージング
- 17:30 終了



11:00～オープニング

・開会のあいさつ

側垣 一也理事長



PanasonicNPOサポートファンドで組織基盤強化のネクストステージ委員会に取り組んできた思いと本日ご参加いただいたことへの感謝、皆さんと一緒に考える未来の可能性に期待を語られました。



・ ファシリテーター自己紹介

川中大輔さん



ファシリテーターの川中大輔さんは、CCJのパナソニック組織基盤強化のネクストステージ委員会に参加していただいています。1年間、一緒に様々な角度から意見交換を行ってきました。

兵庫県生まれ。関西学院大学社会学部卒。
立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修士課程修了。
2003年にシチズンシップ共育企画を設立し、参加型社会の実現を目指して、「市民としての意識と行動力」を育む学びの場づくりに取り組んでいる。2001年から全国各地で市民教育や協働まちづくり、NPOマネジメントなどに関するワークショップを担当(年間80本程度)。2012年から立命館大学共通教育推進機構サービスラーニング担当嘱託講師。

・ 流れとルールの共有

- 1 思ったことは声に出しても良い(出さなくても良い)
- 2 聞いて反応しよう

11:15～ セッション1

「お互いの『2012年度』を知ろう！」



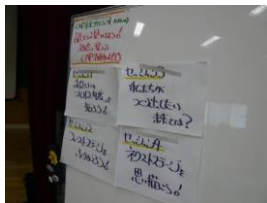
-クイックチェック

今日、どんな体調？

腕を自分のバロメーターにしてチェック。

体調バッチリは、ピンと上にあげて、そこから下に行くにつれて「普通」から「良くないよー」へ。

参加者の今の状態が一目瞭然！！



川中さんのファシリテートでは、A4用紙に紙芝居のように進行が示されていきます。今回は、pptとあわせて進められていきました。

-ウォーミングアップ

円になって、前の人の肩もみ。コミュニケーションをとりながら。
手で前の人の肩や背中を温湿布のように温める。
背中中の血流をよくする。

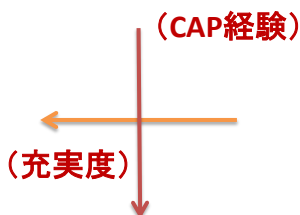
今度は交代して同じことを順に・・・。



-人間マッピング

部屋に縦軸(CAP経験)・横軸(この1年の自分の生活の充実度)でマッピング。

どのくらいのCAP経験を持っている人が参加しているのか、参加者がどんな1年を過ごしたのかを知ることができました。



-4つの窓

グループに分かれて、A4の紙を4つにわけて

①	②
③	④

①名前の由来

②私が普段していることは(CAPの中で)

③2012年度 各地域のCAP活動で良かったことを一つ。

④2012年度こんな新しいことをやったよ、経験したよ。



小グループで「4つの窓」を開いていきました。
ゆったりと時間を使いながら、
笑顔あふれる時間となりました。
午後からのグループワークもこのメンバーで進めて行きました。

-全体フィリップディスカッション

A3の紙に、「今日の期待」を書いて、全体で自己紹介しながら共有しました。ほんの一部ですがご紹介します。

- * 新人ゲットの方法が知りたい！
- * マンネリ気味の気分を変える
- * 社会を変えるCAPをやっていく気持ちを持って帰りたい
- * CAPの有効性、可能性の再確認
- * こんな社会にしたいな・・・という未来を描こう
- * 新たな発見をしたい！
- * CAP活動を広げるために
- * 子どもへの暴力防止を具体的なムーブメントにして
- * ワークショップのアクティビティが知りたい
- * 元気の補給と営業のヒント
- * CAP再生にむけて希望と夢を！
- * 共通の核を、共通の夢を！
- * 心の動く時間を などなど。
- * 情報GET
- * 気持ちと意思の共有を
- * 今後の活動のヒントを
- * CAPの未来を描く



12:30~13:30 昼食休憩



・昼食はランチケータリング用意しました。

メニューは6種類。ランチタイムを含み、今日1日の交流をトータルにデザインすることを考え、ケータリングを導入しました。

食事をとりながら、日々の活動や午前中のワークについて語りあう時間となりました。次々とお皿が空になっていきました。



13:30～ セッション2 「ファーストステージをふりかえろう！」

アイランド形式で、グループでシェアしあいました。
-日本社会を見渡して、子どもの人権や暴力を巡って、
この20年間で起こった……

- ①良い変化は？
- ②良くない変化や変わっていないことは？
- ③この20年間でCAPが実現したことは？
- ④私がCAP活動の中で頑張ってきたことは？

A3の用紙を4つの分けて、それぞれ記入し、グループでシェアしました。



1995年の日本で初めての養成講座開催～2008年度までをファーストステージ、トレーニングセンターが2つとなった2009年度～2012年度を移行期、そして2013年度からネクストステージと位置づけ、ファーストステージから移行期の約20年間で起こった変化、起こらなかった変化を考えていく作業でした。



A3の用紙にこの20年間の子どもの人権や暴力を巡る、いわゆるファーストステージを振り返っていきました。

予め書き出して、それをグループでシェアすることで、話すこと、聴くことに集中して取り組むことができ、熱気あふれる時間でした。

14:10～ セッション3

「私たちが作り出したい未来とは？」

-小講義 「理念から活動をつくり、未来を引き寄せる」

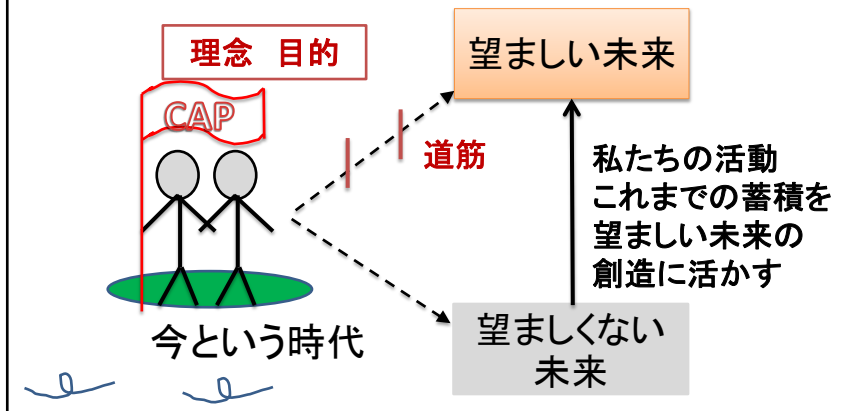


軽妙な語り口でわかりやすい川中さんの小講義。
熱心に聞き入る参加者の様子です。



小講義の内容一

理念や目的を子どもへの暴力防止のムーブメントのエンジンとして望ましい未来にむかう、道筋を作っていく。

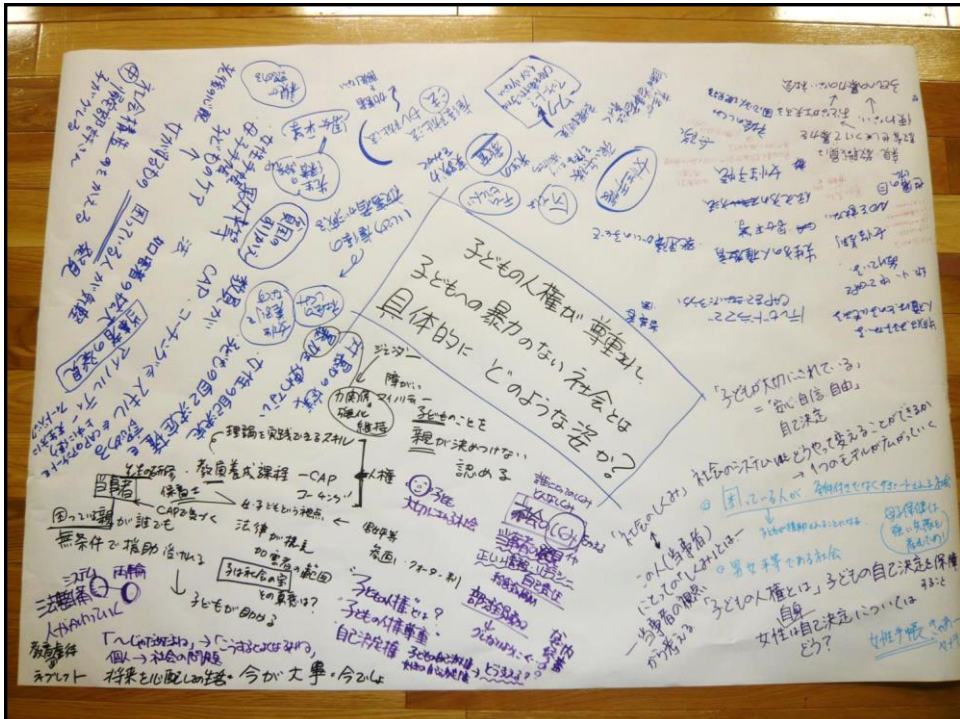


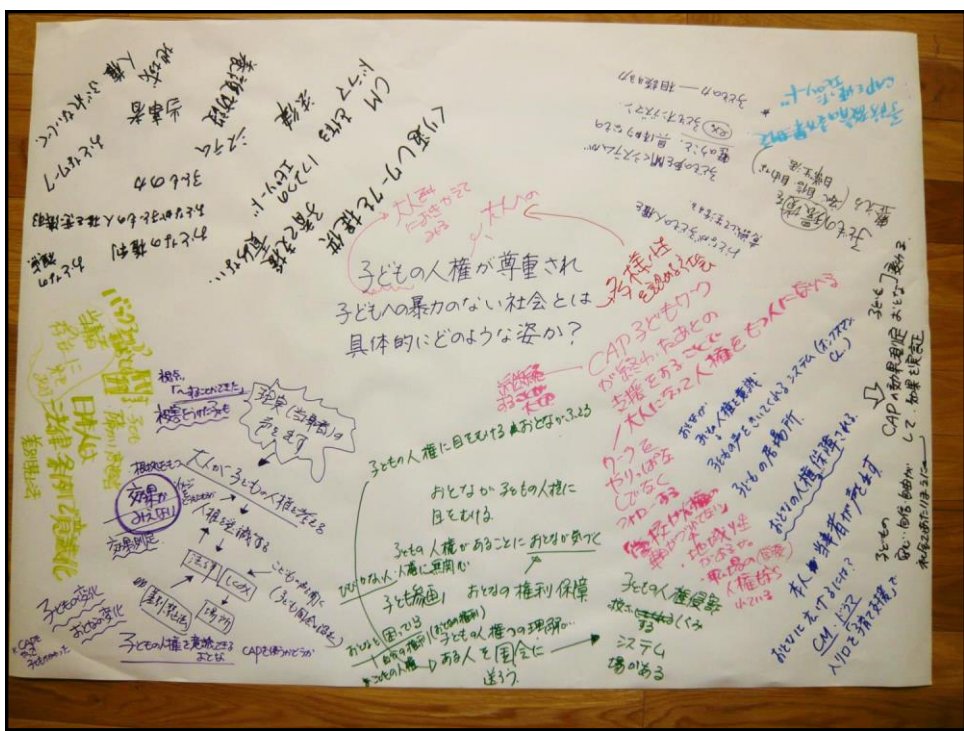
-子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会とは具体的にどのような姿か？

8つのグループでワールドカフェ形式(自分が話すことをテーブルに置いた模造紙にメモしながら、話し合い、グループを変わりながら議論を深めていく)で考えていきました。

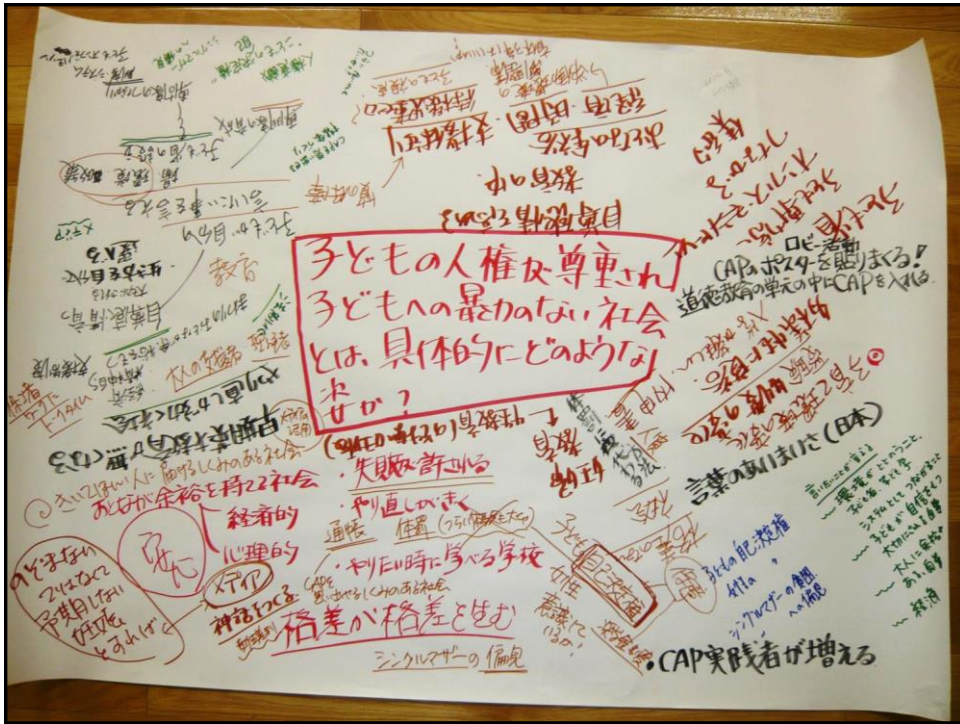
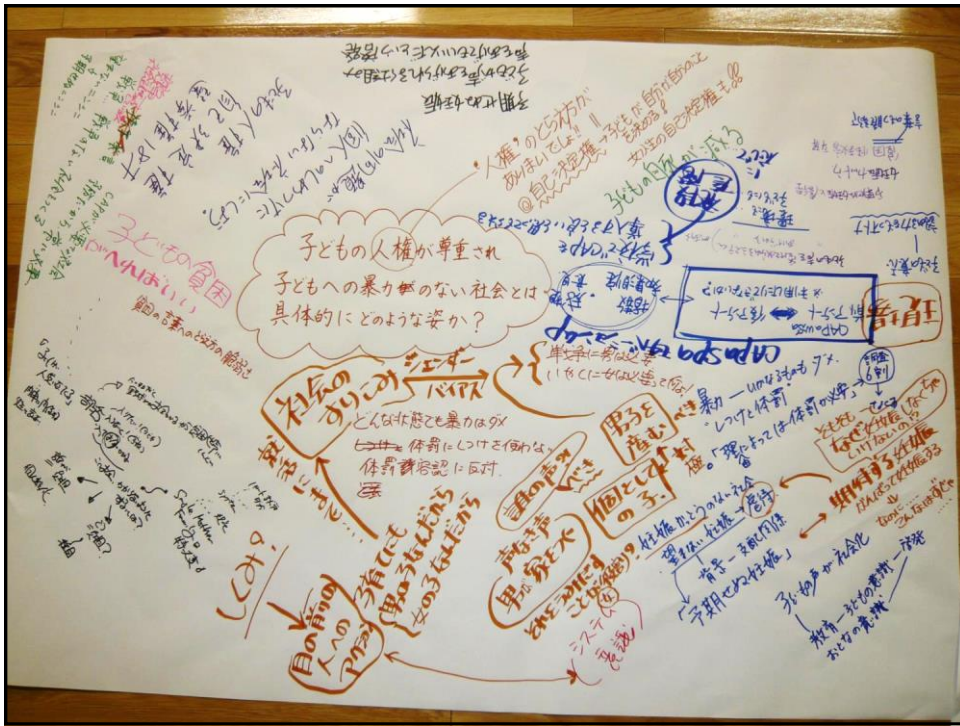
グループ毎の1回目のセッションが終わると、そのグループで最も活動歴の短い一人一人が残り、メンバーが入れ替わって次のセッションを始めるときに、先の1回目の話し合いを共有し、2回目のセッションを行います。計3回のグループセッションを行い、最後4回目は元のグループに戻り、深まった議論を共有しました。

セッションを繰り返す中で、真っ白だった模造紙が埋め尽くされていきました。









-休憩後、「子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会とは具体的にどのような姿か？」をワールドカフェで考えて気づいたこと、感じたことをグループ毎に共有しました。

-話題提供として、中長期目標・計画等の策定を行うため、めざす社会を共有した理事会やネクストステージ委員会での議論を事務局から報告しました。

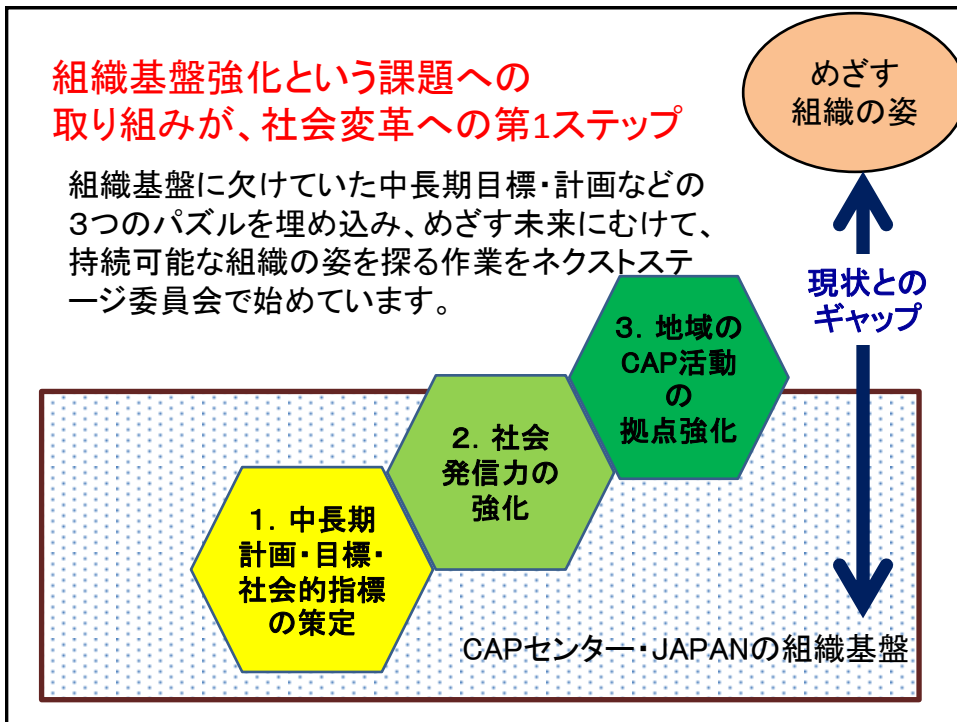
PanasonicNPOサポートファンド 組織基盤強化助成の取組にむけて

社会との接点を広げ、
活動の共感者を増やすという組織の課題解決のために、
組織の基盤づくり・強化をめざして


2012年度からCAPセンター・JAPANは以下の3点、特に中長期計画・目標と社会的指標の策定、社会発信力強化等にむけてネクストステージ委員会を設置し、その中にワーキンググループ1、ワーキンググループ2を設けて取り組み始めました。

1. 中長期計画・目標と社会的指標の策定
2. 社会発信力の強化
3. 地域のCAP活動の拠点強






助成金を獲得した
12分間のプレゼンテーションの最後のppt



**2012年度からの運動のキャッチフレーズは、
すべては子どもの“安心・自信・自由”に**



根拠と海図を手に覚悟を持って取り組みます。

特定非営利活動法人**CAPセンター・JAPAN**

プレゼンテーションの最後に、組織診断で手に入れた診断結果に基づいて抽出した課題を解決し、組織基盤強化に取り組むことを審査員に誓いました。

この助成金によって具体的にどこを通過して、どこに向かっていくのか意識せずに進んできた組織が、中期目標を立て、めざす先を明確にし、中期計画によってそこに向かう道筋を考え進んでいく取組が始まりました。

- 子どもが自殺しない
- 子どもが学校でひとりでいられる
- 子どもが多様な背景を認め合うことができる
- 子どもが将来を描ける(仕事)
- 子どもが社会性を高め、社会参画に意味を見出すことができる(そのためのシステム、取り組みが行われる)
- 子どもが多様性を身を持って実体験できる
- 子どもが社会を自分のものだと思う
- 子どもが好きに学ぶことができる
- 子どもが早起きして「今日何しよう！」とワクワクする
- 子どもがお金の心配をしない
- 子どもが明日のごはんをどうしようと心配しない

具体的な未来像を共有するために
～ネクストステージ委員会での議論から～

目標を共有して基盤強化に臨むために

子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会とは
具体的にどのような姿か？(2019年3月)

～ネクストステージ委員会での議論から～

目標を持って基盤強化に臨むために・・・

子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会とは
具体的にどのような姿か？（2019年3月）

- 子どもの権利について関連団体と協働で社会発信している（子どもの暴力防止白書・シンポジウムの開催等）
- 子ども系NPOとのネットワークが進む
- 子ども省の創設の検討
- 性暴力禁止法の成立・施行
- いじめ防止法の成立・施行

- 子どもが社会の中で、その一員として参加できている状態をめざす
- 子どもの参画できる場づくりを増やす
- 子どもが今よりも元気になれる
- 子ども間の不平等の是正の取り組みがある
- 各市町村の虐待対応窓口の研修制度の確立。（CAPの活用）
- 政治・政権の争点に子ども、女性が大きく加わる。（選挙権18歳）
- 子どもへの政策が中核的に推進されている社会。

- 子どもの権利が尊重され、政治や子ども施策に直接子どもの意見が反映されるシステムが具体的に見えてくる。(子どものアドボカシー制度)
- その政策の具体的取組やカリキュラムの中にCAPを含めた子どもへの暴力防止プログラムが公的に盛り込まれている。
- 社会福祉や保育・教員養成課程の中に必須としてCAPなどの暴力防止プログラムが組み込まれる
⇒虐待・体罰・いじめ防止プログラム
- 地域CAPグループが活動する地域の中で、子どもの権利擁護・確立の中核的な担い手となっている。

- 全国の自治体の20%でCAPとの協働が始まる。
- 子どもは社会全体で育てるという意識が広がっている。
- 社会的養護のシステムが多様化する中で、共通言語としての安心・自信・自由が存在感を増している。
- 子どもを中心に据えた子ども学の認知が広がる。
- 子育て⇒子育ての考え方の転換。
- 子どもの貧困が社会問題として意識され、国レベル、地方自治体レベルの取り組みが始まる。

めざす未来を共有する議論の中で
CAPプログラムを通じて行うことが見えてきました・・・

子どもとおとなをつなぐ

子どもと社会をつなぐ

おとな同士をつなぐ

子ども同士をつなぐ

子どもの視点で、子どもを中心にいて見る

16:20～ セッション4

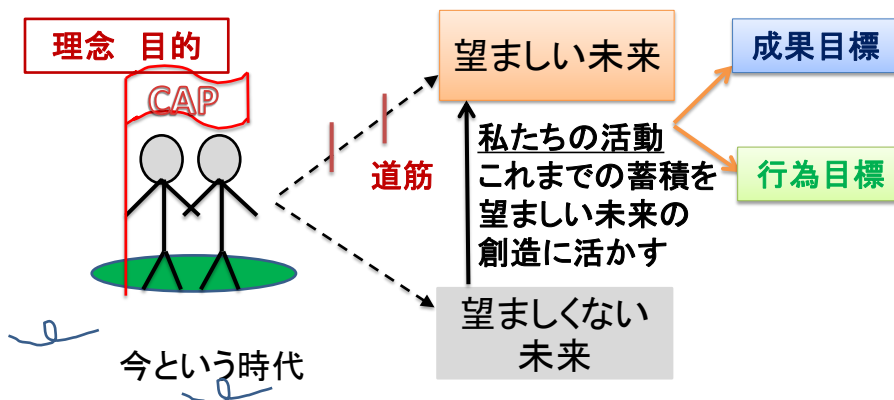
「ネクストステージを思い描こう！」

-いま、私たちの活動を必要としている人、待っている人、働きかけたい人はどんな人で、どこにいるかを想像してみよう。



-小講義 成果目標と行為目標

望ましい未来にむけて、中期計画を立てるためには、成果目標（目的／めざす状態に対する目標）と行為目標（めざす状態を作り出すために行う行為の目標）を立てて進むことが大切。その目標を立てることで足元を踏み固め、進捗をチェックしやすくなることができます。



成果目標と行為目標

成果目標 は、目的／めざす状態に対する目標

私たちの活動によって……

- ・〇〇が広がっている。
- ・〇〇がなくなる。
- ・〇〇が行われている。
- ・〇〇が実現する。
- ・〇〇が変化する。

行為目標 は、めざす状態を作り出すために行う行為の目標

私たちの活動を

待っている人

必要としている人

働きかけたい人に 行うこと、働きかけ。

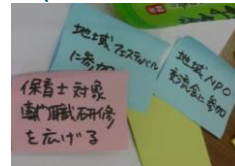
「〇〇する」ことが目標にならないように！成果目標にむかうために行為目標があることを常に意識して！

-私たちが取り組むと良いと思われる活動のアイデアは？(望ましい未来をめざすための取組)

ポストイットで色分けしながら、KJ法(意味の同じものを集める)でグループワーク。

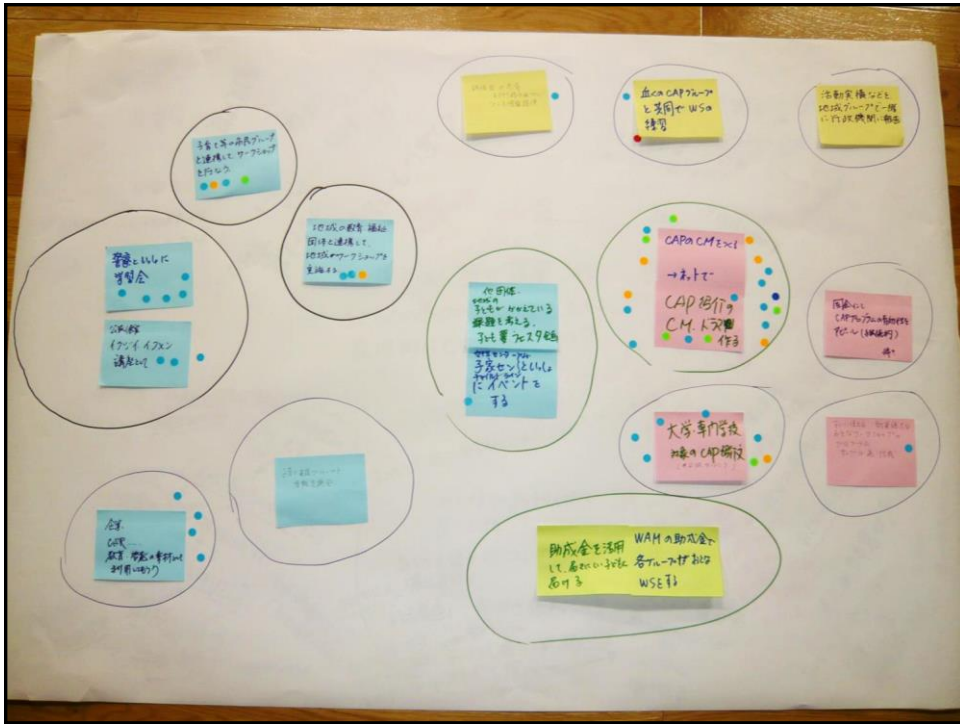
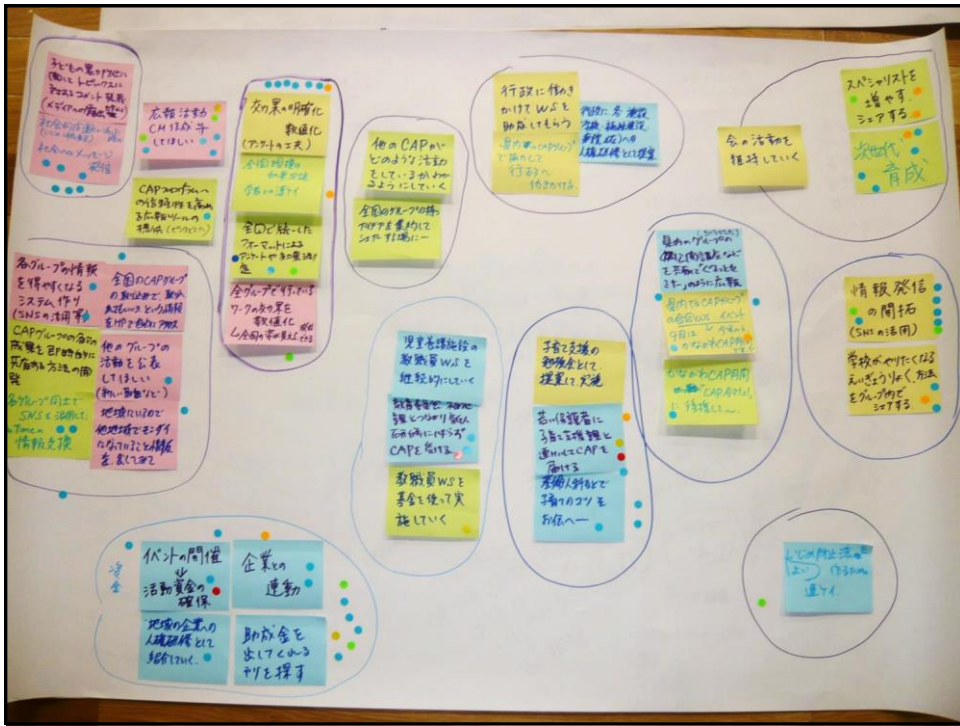
ポストイットの色分け

- 地域で、地域CAPグループが連携して(黄色)
- CCJと連携して(緑色)
- 他の団体や機関と連携して(青色)
- CCJへの提案(ピンク)



グループワークの後、他のグループで出された意見を見て回り、共感したものに「いいね！」マークとしてシールを貼っていきました。



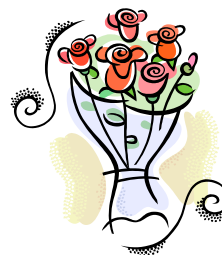






17:00～ ふりかえり

-今回のワークショップを踏まえて、ポストイットに「現場に戻って私が取り組みたいことは？」最大3つ書き出し、今日、気づいたことや感じたこととあわせてグループ毎に共有しました。



クロージング

- ファシリテーターからのラストメッセージ
- 閉会あいさつ(事務局長から)



NPO法人CAPセンター・JAPAN

～参加者の感想から～

どの部分が最も興味深かったですか？

- セッション2でこれまで20年を振り返ってからセカンドステージへの展望をワールドカフェ形式で考えていったこと。それぞれの考え方、アイデアが興味深かった。
- 具体的にどことつながっていくのかが見えて、セッション4が興味深かった。
- セッション4 今まで気づかなかったアイデアが他の人との意見交換や話の中で出てきて楽しかった。特に受け手の視点に立つということの大切さに改めて気づきました。
- 1つのグループでテーマを掘り下げながら、していったのが良かった。
- 自分自身を振り返ったり、これからのグループ活動を考えるきっかけをいただいたり、とてもよかった有意義な時間でした。
- 成果目標と行為目標の違いがよくわかりました。
- セッション4でシールを手にアイデアを見て歩いたところ。
- ワールドカフェなど他のグループの方、多くの方と話せたこと、ワークショップを通じて、理念はみんな同じ！！と再確認できたこと、今後の活動のアイデアを出し合えたこと。

- アイスブレイク、グループシェアの方法、振り返りの方法等、様々な体験があり、おもしろかったです。食事をしながらの情報交換も進みました。
- 成果目標、行為目標の考え方。必要としている人は、誰なのか、何を期待しているのかの視点。
- ネクストステージを考えるワールドカフェ。
- “ネクストステージを思い描こう”すぐにできること、メンバーとシェアしたいこと、少し寝かしてもう一度考え直してみたいことなど見えてきたのでとても良かったです。
- 夢を語ることは楽しいことでした。いつも書き出すばかりでしたが、実現していきたいです。
- セッション3の小抗議とワールドカフェ。未来、ビジョンに対する具体的な理解が深まったのではないのでしょうか。
- いろいろな話し合いやパワーポイントを通じて、ネクストステージをゆっくり考えられたこと。
- CAPの私たちがおとなに発信していけることは本当にすごくいっぱいあるんだ、そしてそれを積み重ねていくことが子どもに、次世代につながっていくんだということが、よくわかりました。

- グループワークの中での次のステップへのできることを出し合う中、地域によって気づいていないこともありました。様々なアイデアが出てきたので、やっていいんだ！という気持ちにもなりました。
- 「気づく」為にステップを追って考えさせられました。
- いろいろな方の話を聞けるグループワークの良さを存分に味わえました。様々なことを書き出すことで見えてくるものがたくさんありました。
- ワークショップの構成。ファーストステージからネクストステージへの導入が分かりやすかった。
- セッション3のワールドカフェ形式のワークショップ。自分の気づき。頭で理解していること、気持ちが違う、社会からの刷り込みなどまだまだCAPを伝える方法がある。
- 様々な地域の方と意見交換をする中で、課題や悩んでいる点が共通しているところが多くあり、そして助言しあえたところがとても楽しかったです。
- セカンドステージに向かっていくために、CAPの今まで、今を整理できたことで、希望夢が持てた。同時に社会が今までに変わっていない部分も明確になり得ることから見つけて取り組んでいこうと思えたワークショップだった。

- 過去を皆で振り返り、互いを認め合うことができたこと。
- ネクストステージ委員会の活動がよくわかりました。CAPは社会を変える活動なのだと、わかりました。
- 経験の浅い人がグループに残り、シェアしていくワールドカフェの方法がいいなと思いました。
- スモールステップで進んでいったので、あまり負担感なく、参加することができた上に、皆で共有したらのびのびしたアイデアがいっぱいあって、気持ちが明るくなりました。他のテーブルを見回るとき「いいね！」シールをはるのは集中してみるのができ、ポイントが記憶に残りやすくていいですね。
- ワールドカフェに最終に、元いたグループに戻ってのセッションで、の話がそもそも子どもの人権尊重って言っている私たちの中のジェンダーバイアスや神話の刷り込みの一旦になっていたこと等の「気づき」は大変有意義でした。

ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました。